

麻布消防署からのお知らせ

1 火災による死者急増中!!!

1月中は、住宅火災での被害が増加しています。

東京消防庁管内で火災で亡くなった方は、今年に入って19人（1月28日現在、自損は除く。）で、昨年同時期に比べて倍以上に増えています。

たばこの投げ捨てなど、喫煙後の始末のしかたが不適切で火災になるケースも多く、今年の冬は特に空気が乾燥して火災が燃え広がりやすくなっているため、火を使う設備はもちろん、身の回りの電気関係の確認などとあわせて、火の元には十分気をつけてください。



2 防火防災チャレンジデーの開催について

麻布消防署では、春の火災予防運動に合わせて、防火防災チャレンジデーを開催いたします。

初期消火訓練や起震車による地震体験のほかに、お子様にはおみやげ（スタンプラリーに参加してね！数に限りがあります。）も用意しています。みんなで来てくださいね！

日時：2019年3月3日（日）午前12時から午後1時30分まで（予定）

場所：パティオ十番広場（港区麻布十番2-13）



（写真は昨年の様子）

3 スプレー缶による火災や事故を無くしましょう

除菌消臭剤や殺虫剤、ヘアスプレーなどのスプレー缶には、LPG（液化石油ガス）やDME（ジメチルエーテル）などが噴射剤として使用されているものがあります。

LPGは、カセットボンベ（調理に使う簡易型ガスこんろの燃料ボンベ）の燃料ガスとして使われていますので、取扱いには十分な注意が必要です。

これらの噴射剤のガスは、可燃性であるため、火源（火種）によって引火、爆発する恐れがあります。

室内で使用したり、処分の際にガス抜きをされていて、一定の濃度（約2～10%）で空気と混ざると、たばこやガス湯沸かし器、ときには静電気によっても爆発、火災になることがあるのです。

缶の中にこのガスが残ったままごみで捨てると、缶を処分する際に発生した火花や静電気などで火災を発生させ、ごみ収集車が燃えてしまう火災も頻繁に起きています。

スプレー缶をごみとして捨てる際には、各自治体のルールに従って十分注意して捨てましょう。

東京消防庁では、穴あけをすると、急に大量にガスが噴出したり（途中で止められません）、穴あけの火花で爆発する危険もあることから、風通しの良い屋外で、使い切ることを第一に、やむを得ず使い切れない場合は、穴はあけずに「安全に中身を出し切ってしまう方法」を推奨しています。

（参考：港区では中身を使い切って、穴はあけず、他のごみとは別の袋で「スプレー缶」などと明記して捨てる。万が一使いきれなかった時には、清掃事務所に相談してください、としています。）

カセットコンロの誤った使用により、屋外でもカセットボンベが爆発を起こすことがあるので、取扱い上の注意事項をよく確認してから使用してください。

